

# 第25回同窓会総会 平成25年8月25日

第25回福岡県立大学同窓会総会が、小倉リーセントホテルにて開催されました。

総会参加者60名：保母養成卒14名、社保短卒16名、福県大卒（大学院卒を含む）7名、県看卒13名、特別会員（卒業校教職員）来賓3名、事務局スタッフ（学生スタッフを含む）6名、託児1名でした。

※総会議題につきましては、総会案内に同封させていただきましたので、そちらを参照願います。

総合司会：小寺一恵（県看5期）さんにより総会がスタート、会長挨拶の後、議長選出が行われ、肘井政厚（社保短3期）さんが選出、議題審議が行われました。

①平成23年度・24年度事業報告、決算報告・監査報告があり一括承認されました。

②役員改選が行われ、平成25年度・26年度役員に以下の方が選出されました。



会長：川上鉄夫（福岡県社会保育短期大学4期）再任  
副会長：郡谷忠士（福岡県立大学社会福祉学科1期）再任  
副会長：野口久美子（福岡県立看護専門学校保健婦助産婦科2期）再任

副会長：杉本眞佐子（福岡県立保母養成所15期）新任  
③新役員により、平成25年度・26年度事業計画案、予算案の説明提案及び会則改正案・慶弔規程案の提案があり、事前に提出された質問に対して事務局並びに会長より回答が行われました。

**事前質問1**：慶弔規程案が議題審議で上がっているのですが、慶弔規程案施行の際の予算立てをしておくべきではないのか？

**事務局回答**：本日提案が承認いただいた場合は、附則によりH26施行される。今まで慣例で行われた部分については、渉外費としてすでに予算化されている。その他は、H26は予備費より拠出。H27以降は、予算案作成時に計上していく。

**事前質問2**：平成24年4月1日より施行の入会金・会費規程、年会費免除の別表について、シニア、パートナーズ、ファミリーと免除対象を設けるのであれば、本学の方針を考慮し、障がい者への配慮もあるべきである。障がい者について別表に追加する形で減免制度適応の提案をする。

**会長回答**：入会金・会費規程については、幹事会の中で、長年会費を納めている会員より、名誉会員制度等の要望が出ていた、それを受け、四役会・幹事会で議論し、パートナーズやファミリーも検討対象として、

前回総会提案・審議・承認と経過してきている。

75歳以上（高齢者）の免除に対しては、福祉的な意味と永年の貢献に対しての免除と考えている。障がい者への配慮に対して貴重なご意見だと思う。福祉的な意味の提案で、減免を対象にする部分を障がい者だけでなく、難病、所得の低い方等への配慮、等全般的な福祉への配慮を考え、議論を進めていきたい。幹事会で審議し次回総会へ提案していく方法を考えたい。

・同窓会収入については、看護学部同窓会立ち上げに対して、入会金減が発生し、年会費も納入率が下がっており、事業は繰越金を拠出していく形で活動している現状であるので、幹事会でしっかりと議論を進めていきたい。

その他会場質問はなく、平成25年度・26年度事業計画、予算及び会則改正・慶弔規程が承認されました。

## ④報告事項

### 【看護学部同窓会との協議についての経過報告】

看護学部同窓会と本同窓会の一本化にむけて、看護学部同窓会看護学部長に連絡をとったり、話し合いのための文書を出している。県立大学看護学部を卒業校が発展解消した母校と考え、また先輩の出された意見を編集し、一本化に向けての話し合いをしたい旨を伝え、7/12までに回答を求める形で文書を出したが、回答はいまだにない。本同窓会としては、引き続き、一本化を目指して協議をしていきたい。

## ⑤事務局報告

本年度、会報発送の日程や発行対象の変更を行った。総会案内（年会費納入願い）を7月に発送、総会后、年会費納入者へ会報を配布とした。

東日本大震災に対する寄付金を平成23年度・24年度とお願いしたところ、116名の同窓会会員から69万の募金が寄せられた。（募金先等の詳細については、会報24号に掲載）  
議題審議終了

## ⑥新役員紹介

会長から役員紹介後、副会長より新役員抱負をいただいた。

## ⑦事務局より役員追加報告

常任幹事（保母養成所4期）月脚雅子 再任  
会計監査監事（福岡県立大学2期）石本光輝 再任  
会計監査監事（福岡県立大学13期）岳尾美代子 再任

## ⑧役員退任挨拶

副会長（保母養成所15期）川口克代さんより退任のご挨拶をいただきました。川口副会長は、平成21年総会にて副会長に選出され、2期4年間、副会長として同窓会活動にご尽力いただきました。ありがとうございました。



## シンポジウム 「地域資産として期待される県立大学の姿」

コーディネーター

森山沾一教授  
福岡県立大学副学長、  
福岡県立大学附属研究所長



シンポジスト



植木康太：福岡県立大学と共に歩む会副会長、未来塾  
中村成也：県大社会学科7期生 CDR21代表  
竹内志織：県大人間形成学科4年 2012年度秋興祭実行委員(渉外部長)

まず、森山先生より「地域と共に歩む大学」～体験学習による質の向上と地域活性化をつなぐ～と題して、県立大学の歴史と現状を説明。保母養成所、看護専門学校の頃から、ボランティア活動に取り組む学生が非常に多いという伝統が県立大学にも引き継がれ、7割の学生がボランティア活動を経験している中で、社会貢献支援センターが設置され、地域との連携をはかり、「地域とともに育つ大学・大学とともに育つ地域」を目指しているとのことがありました。

次に地域代表の植木康太さんより、「福岡県立大学と共に歩む20年」と題して、4年制大学設立秘話や歩む会の成り立ち、20年間の活動を発表いただきました。地域が大学誘致を歓迎し、入学式に鉢植えをプレゼントしているのは、それを持って田川の街を歩き、「今年も入学生がきた」と伝えて欲しいと話され、大学と地域とのつながりを温かく考えられていることが伺えました。共に歩む会の活動は多岐にわたり、花いっぱい運動、You遊マップ情報誌の制作、大学の教職員と住民が触れ合う交流会、留学生支援、街灯設置運動では資金作りのためオーナー制度を考案などあり。7月には県立大学と共に歩む会創立20周年記念事業「ASIAN PARTY」を開催されたそうです。韓国・タイ・中国からの留学生を迎え、家庭に招いて日本の手料理をふるまったり、農業体験、文化体験、自然体験などさまざまな支援を行う中で、我々を見つめ、日本の良さを見つめるというのが、副次的な収穫だと思っているとのことでした。



卒業生代表中村成也さんからは、「田川が好きでたまらん」と題して、お話いただきましたが、手拍子に合わせて炭坑節の披露から始まり、会場がいっぺんに和み、心をぐっと掴まれました。

学生時代はサークル活動に力を入れ、1～2年で輪を広げ、3年生で自治会の代表、そして祭りのお手伝いとして地域へ出ていくようになり、地元田川をもっと知りたい、知って自主的に活動したいと思われたとのことでした。

た。その中で誕生したのが「パラパラ炭坑節」、この創作炭坑節を踊るユニットとしてCDR21を立ち上げ13年間活動を継続しているそうです。炭坑の仕事唄、炭坑節に関しては田川一の知識を持ち、誰にも負けないと自負されていました。その他、田川ホルモン鍋のPR活動、地元キャラクター堅抗戦隊「クロダイヤー」ショーの開催、炭坑節のルーツを掘り進む輪月(わげつ)の取り組みを行い、田川が好き！を形にしていく、熱い気持ちを語っていただきました。田川には土の中に息づく文化が眠っている、それを掘り起こす第二の炭坑夫(セカンドコールマイナーズ)として活動していきたいとの言葉が心に残りました。

在学生代表竹内志織さんは、「地域とのつながり」学園祭実行委員会での活動そのものが、自身の成長につながったというお話でした。

1、2年生の頃は楽しく、3年生になって渉外部長を引き受け、地域の方々との関わりが増え、県大生が地域から愛され、とても信頼されているという実感を持ったと話されました。ただ、様々な活動の中で、地域の方々の要望と自分たちのやりたいこと、やれることとのギャップを感じてしばしば悩むこともあったというお話も聞かれました。



3年間の学祭活動を通して、「人間関係」「社会のつくり」「リーダーシップ力」「対話力」「自分への自信」と多くのものを獲得でき、就職活動にとっても役に立ち、これらのことが基本になって現在の自分があると感じているそうです。今後も自分がかえてくれた仲間たち、先輩方、田川の方々に感謝しながらこれからの人生を歩んでいきたいと締めくくられました。



シンポジストからの提言

竹内さん：同窓会がもっと学祭に関わって欲しい、学祭の日が同窓生の集まる日になれば。

中村さん：クラブハウスの設置や大学構内の施設時間の緩和など、サークル活動の環境整備。母校にひとつでもふたつでも関わりを持って。

植木さん：アジアに開かれた大学を田川から発信することがどんなにすごいことか、共に歩む会の活動をこれからも継続していき、感謝の気持ちをしっかり持って、地元に戻元していきましょう。

まとめとして、学園祭に集まる日の企画(ホームカミングデー)を同窓会として考え、県立大学と一緒に盛り上げていただきたい。大学の学生、教員も含め、母校愛といったものが地域と一緒に育っていけば良いのではないかとふいに思っています。また、学内の設備、日本庭園の維持費など、何らかの基金を作っていこうと考えています。同窓会会長が大学の経営協議会委員として大学経営に関わっていただいていますことも大きなことです。県立大学へますますの支援をお願いしたいと森山先生は、笑顔で締めくくられました。



# 懇親会

懇親会参加者 61名：保母養成卒14名、社保短卒15名、福岡大卒（大学院卒を含む）6名、保健婦養成卒0名、公衛看卒3名、県看卒13名、特別会員（卒業校教職員）来賓3名、事務局スタッフ（学生スタッフを含む）6名、託児1名

## 来賓紹介

福岡県立大学 副学長 森山 沾一  
 福岡県社会保育短期大学元教員 俵国 昭  
 福岡県立大学と共に歩む会 副会長 植木 康太

○乾杯の音頭を森山副学長音頭で乾杯、円卓テーブルにて歓談しながら会食を行いました。



○来賓方々に県大の現状、思い出、社会保育短大の学生について、田川地域と大学についてなどのお話を交えながらご挨拶いただきました。



○少しの歓談ののち、卒業校別に出席をとるような形で、その場に立ってご挨拶いただきました。



○大学祭実行委員会5名より、今年度秋興祭（22回）11月9日10日のアナウンスがありました。



総会司会を担当下さった県看看護婦科5期小寺さん(↑写真右側)

社会保育短期大学1期のお二人 →



○お楽しみ抽選会 懇親会アンケート用紙に貼り付けてあった番号をもとに、大抽選会を行いました。

- ★開学20周年記念誌 「ひらく夢～筑豊に生まれて～」
- ★遊・ゆうマップ（植木様提供）
- ★山本作兵衛炭鉱画集
- ★観光タイル2組（三井田川炭鉱・川渡り神幸祭）
- ★クオカード千円
- ★たがたんクリアファイル（たがたんは田川市のゆるキャラ）



当たった方の喜びの顔



○当番期は、出身校ごとにステージに上がり、代表の方よりご挨拶いただきました。



県看保助科5期

保母養成所15期



社会保育短期大学3・4期

総会議長肘井さん(↑写真右から3番目)



県看看護婦科5期





○希望者によるアナウンスで  
県大大学院修了 大森ちづるさんより  
福岡県立大学大学院アピールが行われ  
ました。



保母養成所2期の岸上美智子さんより  
高齢者向けボランティア実践のお話  
と楽しい体操紹介



○閉会の挨拶  
(懇親会司会：県大17期松本実華)

次回の総会は同期にた  
くさん呼びかけたいと  
思います！！

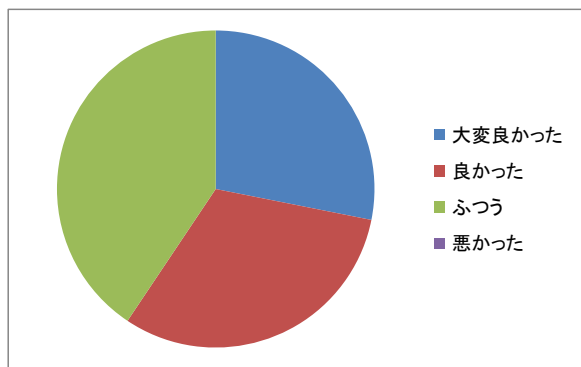


シンポジスト在学生代表、竹内志織さんより

今回、地域とのつながりというテーマで、学園祭実行委員会での活動を通して経験したことのお話をさせて頂きました。自分の思いを伝えることができ、その思いを同窓会の皆様に理解して頂けたことが、本当に良かったです。発表をするにあたって、改めて田川の皆様とのつながりについて考えることができました。そして、田川のこと、田川の皆様のことが大好きなのだということを感じました。大学生活も残りわずかです。この恵まれた仲間、環境にあまえることなく、自分自身でも何か発信できたらなと思います。今回、このような素晴らしい機会を頂いたことに感謝致します。本当にありがとうございました。



## 総会全体評価



・出席者数の少なさには驚いた。「また、来よう」という気にはなかなかかなりにくい。男子の出席は？

・同窓会が統一できれば！

・よく理解できました。役員の皆様、今後ともよろしく願いいたします。

・初めて参加させて頂きました。役員の皆様方、いつもお世話いただき、まことにありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

・資金繰り…大変ですね。

・スムーズに進んだ。

・同窓会と大学の距離感が近くなったと思います。

・まず、総会に参加して頂けることが大切です。どうすれば、参加率がよくなるのか？頭が痛いところです。予算も少なくなってきました。年会費を増やすことを考えていきたいです。

・スムーズに予定通り出来てよかった！

・天候のせいもあってか、参加者が少なかったのが残念でした。お世話して下さいました方には、とても感謝しています。お世話を答えられる会になっていく事を願います。

・初めて「同窓会」に参加致しました。保母養成所からの流れ、また、同窓会の持つ問題(看護学部が別の同窓会を作っている)というのが大変よく解りました。やはり、県立大として一本化される事が好ましいと思います。頑張ってください。

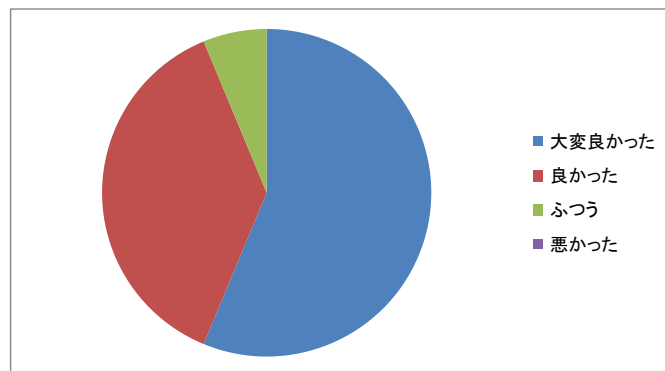
・現在の同窓会の動きについて理解できました。

・人数が少なかったけれども、有意義で同窓会には参加しないとイケないなと思いました。自分の学舎の現状を知ることができたのでよかったです。会費の件、意見を言うのに勇気がいったので言えませんでした。障がい者の方の人数はそう多くないことなので、そういう方のことも考えている同窓会はあまりないので、良いことだと思いました。それ以上に他の方の同窓会費納入に力を入れたら、解決するのではないかと考えます。

・総会参加者が少ないことがとても残念です。北九州近隣には多くの卒業生が居るのに、年々少なくなるようですね。各期の幹事がもっと声掛けして盛り上げていくよう、努力・工夫したらと思います。

・地域に愛され、地域と共に歩む学生の姿、それをサポートされる植木さん、中村さんに心打たれ、楽しく聞くことが出来ました。こうして県大は大きく育っていくのだと頼もしく思います。短大が出来たばかりの時、同窓会の会長として卒業式など学生にスピーチしたことを昨日の様に思い出し、現在は会長、副会長が男性で、行動力、言動力等本当に力強い。大世帯になった同窓会をまとめるのは大変だと思いますが、頑張ってください。出来ることがあれば、生きている内に少しでもお手伝いしたいという気持ちになりました。

## シンポジウム評価



・田川の活性化に努めている方々の健闘に拍手。継続することの重要性は認識。でも田川は田川。

・地域と共にある大学の様子がよくわかりました。同窓会会員としても何か出来ることはないか?と思います。田川がもっと発展してほしい。

・それぞれ貴重な動向と発表でした。

・県立大の歩みを知ることができ、また、学生さんの活動や中村さんの活動を知り、とても有意義でした。私も田川高校出身で出来れば、ボランティアしたいと思いました。(現住所が福岡なので距離的に厳しいのですが応援しています。)また、県立大同窓会会員で良かったと思いました。

・小規模ながら、非常に良かったです。シンポジウムは勉強になり、とてもいいことと思う。ただ、これが基で総会に足が遠のく(堅苦しい、勉強会みたい…)人もいるのではないだろうか。次回の試みで、総会以外はすべて交流にして、同窓生に“みんな楽しく交流しませんか?”という形でPRしてみるのもいいのではないだろうか？

・地域の方との繋がりを通じて、学生さんが成長された事実を教えて頂き感動でした。ありがとうございました。

・同窓会事業への提言があったと思います。

・徐々に盛り上がり、懐かしく、生き生きとした時間を体験できました。少しずつ関わっていきたいと思います。ありがとうございました。

・私は地元ではありませんが、結婚してから田川に移り住んでいます。私は、まだまだ田川に貢献できていないなと実感しました。大学に私のできる範囲で、協力していただけたらいいなと思いました。

・大学生が地域と共に育つことが大事。協力されている。問題解決しながらよりよい関係になれるよう祈ります。私にできる協力は、していきたいと思います。

・大学のこれからを見直し、テーマを考える参考になったと思います。大変充実した同窓会でした。

・田川と県大のつながりを強く感じました。田川が少々うらやましくなりました。

・田川にあまりなじみがありませんでした。若いパワーを感じました。田川で県立大学がもっともっと地域とのふれあいを大切に活動してほしいと思います。県立大学はほこりです。

・田川への熱い思いが伝わり、嬉しかった！私も1つでも何かやってみようと思います。

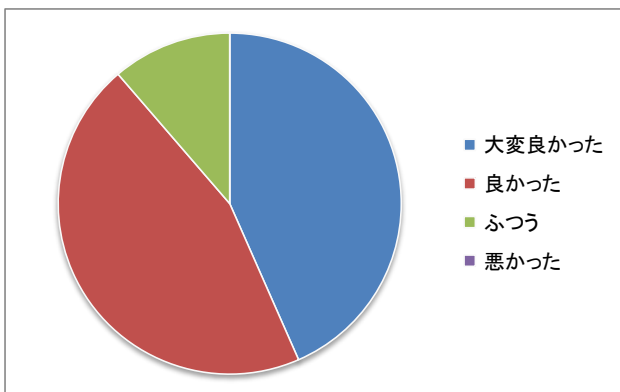
・活動内容や地域の様子がよく、理解できたと共に、努力されている方々の大変さ、素晴らしさを感じる事が出来ました。

・県立大、そして田川のことがよく解り、県立大か

らいろいろ発信されていることなどを知り、頼もしく思い、益々の県立大、また、同窓会の発展を祈ります。

- ・たのしい一時でした。具体的な活動をしていらっしゃる3人の様子、尊敬です。うれしいです。
- ・田川の具体的な活動について親しみを持つことができました。これからの動きについて、さらに関心もちたいと思います。
- ・それぞれに皆さんが、その立場で出来る限り頑張っているのだなぁと感動しました。私も何か出来ることをしたいと思います。
- ・田川に対する熱い思い。
- ・他県から田川のニュースを聞くと嬉しく、誇らしく思っています。後輩の方の一生懸命の取り組みを知り、嬉しく思います。秋興祭に行ってみたくなりました。
- ・大学のため、地域のため、自分のため、日々活動なさっているシンポジストの皆さまに感激しました。それぞれの発表を聞き、今後どんな形で学園祭などお手伝い出来るか考え、応援できるか、同期会を開催して同窓会を盛り上げていけるよう努力したいと思います。
- ・こういう楽しいシンポジウムなら、もう少し宣伝したら同窓生も集まるのでは！同窓生が集まるような企画をしてほしい。例えば、五木寛之氏を呼ぶ、有名な歌手を呼ぶ、絶対集まると思う。

## 懇親会評価



懇親会の流れについてのアンケート

- ・せっかくCDRの話が出ていたので、1ステージあってもよかったかなと思います。
- ・良かったです。(26)
- ・もっと交流の時間を増やしてほしい。
- ・あっという間に過ぎてしまいました。
- ・無理はありませんでした。
- ・良かったです。抽選会の時、番号が最後の方であわてていたの、何か対策があればと思いました。お疲れ様でした。
- ・OKとしましょう。同窓会は遠い存在でしたが、アットホームで身近に感じました。
- ・いまいちでした。
- ・普通 (2)
- ・ちょうど良い。(7)
- ・会場も駅から近くてよかったです。
- ・バランスよく流れた。
- ・当番期紹介、一言挨拶などがあり、また、プレゼントタイムなど、ホッと出来てよかったです。最後の遊び、楽しいことでした。
- ・居心地よく過ごせました。事務局の方の愛を感じましたよ。
- ・ゆったりしていてよかったです。